

【シリーズSDGs ⑤】
身近なところからSDGsの取組をしましょう。

ゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」

SDGsゴール5は「ジェンダー平等を実現しよう」を目標としています。

ジェンダーとは、生物学的な性別ではなく、社会的・文化的な役割の違いによって生まれる性別のことを指しています。例えば「男性はこうあるべき、女性はこうあるべき」などと言われる性別のことです。

世界では、女性というだけで、教育を受けられない、家事・育児に専念させられ希望する仕事に就けない、結婚・妊娠・出産の強要など様々な差別を受けるケースがあります。

日本でも男女の格差を比べたジェンダーギャップ指数によると156か国中120位であり、社会の中で男性、女性が平等であるためにはまだまだたくさんの課題があるようです。

男性だから、女性だからと様々な差別を受けることのない社会をつくることが求められています。



○行政の役割としては

自治体による女性や子どもなどの弱者の人権を守る取り組みは大変重要です。また、自治体行政や社会システムにジェンダー平等を反映させるために、行政職員や審議会委員などにおける女性の割合を増やすことも重要な取り組みとなります。

○私たちができること(例)

- ・身近なところからジェンダーの視点を意識する。
- ・仕事も家事も育児もすべてにおいて性別にとらわれず平等に分担する。

2030年までの国際的な目標の実現に向け意識をして実践しましょう。

私たちができること(例)



先入観で役割を決めつけていませんか？

身近なジェンダーについて考えてみましょう。(仕事、家事、育児…)

目標達成のためのターゲット

○政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。

○ジェンダー平等の促進、ならびにすべての女性及び女子のあらゆるレベルでの能力強化のための適正な政策及び拘束力のある法規を 導入・強化する。

SDGs5「ジェンダー平等を実現しよう」では、上記のようなターゲットを9個掲げ、目標達成に向けて取り組みを進めていきます。

※公益財団法人 日本ユニセフ協会HP引用

問 企画商工観光課 企画・SDGs推進班 ☎ (72) 1151